

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	1270200627
法人名	医療法人社団 小羊会
事業所名	医療法人社団 小羊会 グループホーム横戸
所在地	〒262-0001 千葉市花見川区横戸町1 1 2 3 - 4 (電話) 047-481-1611

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	〒270-1151 我孫子市本町3 - 7 - 1 0		
訪問調査日	平成20年7月23日	評価確定日	平成20年8月20日

【情報提供票より】 (平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	12人, 非常勤 10人, 常勤換算 16.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,800 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(59,800円) 無	有りの場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (6 月 30 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 85 歳	最低 71 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 小羊会 千葉横戸クリニック すがや歯科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当施設は、法人が運営する医療施設の院長(法人代表)が、人工透析の必要な方が入居出来る施設をつくりたいとの思いから、同一敷地内に併設された。月1回の定期健診や週1回の健康チェック、急な医療ケア対応、人工透析者の入居(4名)など、健康管理に対する安心度が高く、当施設の特徴になっている。また、自然環境豊かな場所にあつて、利用者は周りの緑を楽しみながらゆったりと暮らしている。施設隣接地の梅の木と畑の作物等の育ち具合が掲示板で紹介されており、収穫する楽しみにもなっている。職員は定着率が高く、働きやすい職場の中で利用者のことを考えながら、日々サービスの質の向上に取り組んでいる。家族アンケートでは、施設にとっても行きやすい、医療ケアに対して安心、職員が親身になって対応してくれるなど、施設の良さに対する意見が多く寄せられ、満足度の高さが窺える。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価報告書をもとに、全体会議の中で課題を話し合い、改善に取り組んだ。改善課題として指摘された終末期における指針及び同意書は、本年度は作成され運用を開始している。また、外部評価の結果は家族や運営推進会議にも報告している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はまず施設長と管理者が中心になって作成した。それをもとに職員の全体会議の中で話し合い、改善課題などをさらに検討し、最終的に内容を一部修正して自己評価を作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は昨年度は2回の実施である。構成メンバーは利用者家族、包括支援センター職員、介護認定調査員、民生委員、近隣住民、職員である。参加者は回を追うごとに増えている。討議の内容は外部評価の報告、生活支援、運営体制、避難訓練のやり方などで、出された意見はサービス向上に活かしている。今年度は開催頻度を増やす方向である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や行事参加の際に、職員が日々の報告を行うとともに、話し合いの場を持ち要望等を集約するようにしている。出された要望等は、「ご家族からの要望」として掲示し、職員全員が共有し改善に取り組んでいる。職員の全体会議でも話し合い、確認している。また、外部の苦情窓口を重要事項説明書に明記し、家族に説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の盆踊りに参加したり、近隣のグループホームとの交流や敬老会に町内のサークルグループに来てもらうなど、地域との連携に努めている。地元自治会との交流については、自治会に挨拶に伺ったが、入会するには自治会からの要望が多く、今のところ未加入である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当グループホームの理念は「入居者一人ひとりが自信を持って感情豊かに暮らせるよう援助します」「入居者一人ひとりが体力の低下を補いつつ持てる力を存分発揮するよう援助します」など、4項目である。利用者を生活の主役において、生き生きとした暮らしをサポートしようとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットに掲示し、職員がいつでも見ることが出来るようにしている。理念の実践については、月1回の全体会議、ならびに各ユニットごとの分科会で話し合いを行い、自立支援を念頭に利用者の気持ちをもって取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊りに参加したり、近隣のグループホームとの交流や敬老会に町内のフラダンスサークルに来てもらうなど、地域との連携に努めている。地元自治会との交流については、自治会に挨拶に伺ったが、入会するには自治会からの要望が多く、今のところ未加入である。	○	利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らしていける基盤づくりを更に進めるため、昨年まで行ってきた中学生の職場体験受け入れ再開や、小学校の運動会見学、自治会への参加等についても引き続き検討され、実現されることを期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の評価報告書や自己評価をもとに、月1回の全体会議の中で課題を話し合い、改善に取り組んでいる。外部評価の結果は、家族に送付するとともに、玄関入り口に、施設の紹介パンフレット類と一緒に置き、訪れた人が誰でも閲覧出来るように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は昨年度は2回で、開催頻度を上げることが当面の課題である。構成メンバーは利用者家族、包括支援センター職員、介護認定調査員、民生委員、近隣住民、職員である。内容は外部評価の報告、生活支援、運営体制、避難訓練のやり方などで、出された意見はサービスの質の向上に活かしている。	○	今後開催頻度を増やすべく、年間スケジュールをあらかじめ設定するなど、具体的な検討を進め実現されることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	千葉市グループホーム連絡会花見川地区の世話人として、市担当者を招いて解説や相談をお願いしている。法律改正の説明や地域密着型になり、当施設のような境界地区での入居基準などの不透明点について意見交換している。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付時に、主だった出来事や身体状況報告、預り金残高、ホームの予定などが書かれた「○○様の家族通信」を同封している。家族アンケートでこの家族通信は、「心」が込められているので涙が出るほど嬉しく思ったとの感想もあり、好評である。	○	季刊のホーム通信「茶ばしら新聞」は、現在休刊中である。「茶ばしら新聞」には外部評価の報告や、利用者の作品、写真、家族の思い出、畑の作物状況など満載で、家族にとって施設全体のことを知る貴重な情報源であった。手書きのものでも価値が大きいので、是非再開されることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や行事参加の際に、職員が日々の報告を行うとともに、苦情や要望等を伺うようにしている。出された要望等は、「ご家族からの要望」として掲示し、職員全員が共有している。職員の全体会議でも話し合い、確認している。外部の苦情窓口は重要事項説明書に明記し、家族に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の連携がよくとれていて働きやすいこともあり、異動・退職者は少ない。比較的勤続年数が長く、利用者はいつも馴染みの職員に囲まれている。辞める場合は利用者にはきちんと挨拶をして納得してもらおう、また辞めてからも訪ねてくれるなどの心遣いがみられる。家族には、家族通信や手紙で知らせたり、運営推進会議でも報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市が開催する研修会に積極的に参加する他、歯科医師による口腔ケア教室、リハビリ教室や疑似体験、身体拘束のないケアの研修また、外部研修を受講した職員が全体会議時に伝達講習するなど、常に職員を育てる機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市のグループホーム連絡会の花見川地区世話人として、積極的に行動し、サービスの質の向上に取り組んでいる。世話人会（約10名）は月1回実施し、勉強会も月1回実施している。今回は4回連続講座として「センター方式」を学び、毎年8月には「新人研修」を開催するなど、同業者同士のスキルアップと情報交換や交流を兼ねた活動を行っている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前面接は自宅に訪問し話を伺っている。住居環境を知り、本人・家族から十分な聞き取りと性格や人となりなど把握している。職員や他の利用者、ホームの雰囲気馴染んで、入居後の生活が安心して過ごせるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として接し、よく話をしている。ホームで飼育しているメダカの世話をする方や、朝顔やカサブランカの育て方など園芸に秀でた方からは、それぞれの得意分野について教えて貰うことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のユニット毎の分科会でサービス内容の確認を行っている。例えば、透析や糖尿の方の食事制限はストレスの遠因にもなるので、本人の嗜好に合わせて好きなものを食べてもらえるよう、カロリーや塩分・水分の調整を図り体調を考慮し、希望に沿えるよう配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎に作成している。作成に当たっては、本人・家族と充分話し合いを行うとともに、毎月往診の主治医や毎週訪問の看護師のアドバイスや意見等も取り入れ、より良い生活が送れるよう配慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎の見直し以外に、利用者の状況が変わり、現行の介護計画では無理が生じた時は、速やかにケアカンファレンスを行い関係者と話し合っ、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	このホームの最大の支援は、人工透析の必要な方が入所でき、安心して生活できることである。また、同敷地内の併設クリニックは毎月の往診の他、何かあれば何時でも駆けつけてくれ、利用者のもとより、家族に大きな安心をもたらしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診してくれる歯科・眼科・訪問マッサージの他、本人の希望するかかりつけ医の受診には家族が行かれない時は職員が同行して適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年の外部評価の指摘を受け指針及び同意書を作成した。現在、終末期の方がおられ、どのような状態の時入院するかなど、24時間連絡可能なようにし家族と密に連絡を取っている。重要事項説明書には「家族の意向によりターミナルケアを実施の際には主治医をはじめとしたクリニック職員と連携をとり行います」と明記している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助時は他の人には聞こえないようさりげなく誘導している。利用者が不穏の時は寄り添うようにし、ゆっくり一対一の話し合いをして気分を和らげている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望が表明できない方には、その日をどのように過ごしたいかのペースを作ることも支援として捉え、毎日がその人らしく過ごせるよう配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前には摂食嚥下しやすいよう歌を歌ったり、テーブル拭きや配膳をしたり、食後は片付けやお盆拭きなど職員と一緒にしている。誕生日会は各々の誕生日に本人の好物を全員で会食する楽しみがあり、また○○パーティと銘打って、随時楽しい食事の提供をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の大きな特徴は、利用者の希望する時間に入浴できることである。毎日入浴する方・就寝前に入浴する方など本人の入りたい時間に合わせており、平均週3回以上は入浴が出来るよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花栽培で朝顔やカサブランカを育てる花好きな方、家事が好きな方は食器洗いや掃除をしたり、周りの人の面倒をみる世話好き方などそれぞれの力と生活歴を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎月必ず行事日を設けて出かけるようにしており、外食や千葉市立動物園にも出かけた。日常では付近の散歩やコンビニでの買い物の他、庭続きの畑では常に作物が育てられ、収穫は利用者の手で行えるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一番館は玄関の自動ドアの押しボタンが手の届かない高さに設置している。二番館は玄関の施錠はしていないが、裏庭に行くドアを施錠している。利用者毎の行動パターンを常に把握しているので、鍵を掛けなくても安全が確保できないかを全体会議で検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者も参加して年2回の防災訓練のほかに、消防署への通報訓練や救急救命講習、隣接のクリニックと災害について勉強会を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし、一人ひとりの摂取状況を把握している。糖分や塩分制限、嚥下力など利用者の身体状況に合わせ、栄養のバランスの取れた食形態での食事の提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関受付には、利用者の丹精込めた折り紙細工の作品が多く飾られている。採光は日差しが強い夏場は、タペストリーを活用して居間の天窓からの日差しを柔らげている。ウッドデッキでは職員の日曜大工により、寒冷紗を用いて日除けを作るなど、居心地良く過ごせるようなアイデアに富んだ工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団、箆笥やテーブル・小物類・テレビなどの他、仏壇などの本人の馴染みのものが配置され、居心地良く過ごせるようにしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。